

計画見直しの背景	計画の位置づけ	計画期間									
第2次生涯学習推進計画は、計画策定後5年目を迎え中間年を迎えることから、計画策定後の社会情勢の変化等を踏まえ、市民アンケート調査の結果やこれまでの取組の進捗状況から課題を整理し、計画の見直しを行うもの。	市の最上位計画である「第六次春日井市総合計画」の個別計画として位置づけられ、文化、健康、福祉などのほかの牽連する行政計画と整合を図っています。	平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)まで									
		2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)
		第2次春日井市生涯学習推進計画					前期計画			後期計画	

現状と課題

I 学びにつながるきっかけづくり

市民アンケート調査

- ①生涯学習活動を「していない」:39.9%、年代別では30～50代でその割合が高い
- ②生涯学習に取り組もうと思わない理由:「仕事や家事が忙しくて時間がない」、「きっかけがない」の割合が高い。「面倒である」、「そういうことが好きでない」の割合がH28年度調査と比べ増加傾向、生涯学習という言葉を知らない人も多い。

市の取組・進捗状況

- ①情報サイトの認知度DOWN ②広報春日井の発行回数の縮小

課題 → 多くの人が生涯学習に取り組みたいとなるような工夫が必要

- 効果的な情報伝達手段(SNS)の検討
- 単なる学習情報の発信だけでなく、生涯学習の魅力が伝わるような情報(わかりやすく、親しみやすい情報)の発信が必要
- 興味・関心をもってもらい、継続した学習へつなげる(きっかけとなる講座の実施)
- 誰もが気軽に参加できるきっかけづくり、環境づくり必要

II 多様なニーズに応じた学ぶ機会の充実

市民アンケート調査

- ①今後、どのような手段で取り組みたいかとの質問に対し、「市や地域団体が開催する講座・教室」が47.9%で、市などが開く講座に対する期待値は高い。
- ②今後、機会を増やしたい学習の内容として、様々なニーズが混在し、求められる学習内容は多岐にわたる。
- ③生涯学習を盛んにするために市が力を入れるべきこととして、「生涯学習講座の内容の充実」が最も高くなっている。

市の取組・進捗状況

- ①講座受講者の減少

課題 → 世代やライフスタイル等によって学習の目的や希望する学習内容・方法が異なる

- 各世代のニーズに応じた学習メニューの提供が必要

III 学んだ成果を生かせる仕組みづくり

市民アンケート調査

- ①「地域でのまちづくりや活性化のために生かしたい」と回答した人は、3.0%にとどまり、地域活動のために生涯学習を行っている人の割合は低い。
- ②「学習の成果をまちづくりに生かしている」と回答した人は11.4%で、「生かしたいができていない」人の割合は20.0%。
- ③身につけた技術や技能を生かすための情報を入手できていない。

市の取組・進捗状況

- ①情報サイト登録講師は微増するも、活躍の場が少ない
- ②公民館まつり参加団体数DOWN

課題 → 個々の知識やスキルを地域の課題解決に生かせる仕組み

- まちづくりを進める上で必要な知識等を学べる機会を充実させる必要がある
- 市民が地域活動の担い手として活躍することができるよう、関係機関との連携・協力体制の充実を図る必要がある。
- 情報サイト登録者や生涯学習活動団体が活躍できる機会の提供

IV 学びを豊かにする環境づくり

市民アンケート調査

- ①公民館、ふれあいセンター等の利用について、約6割の人が利用したことがあるとしているが、講座や貸館、公民館まつりへの参加など生涯学習を目的とした利用はやや少ない。
- ②利用の仕方が分からないとする人が多い。

市の取組・進捗状況

- ①施設利用者数の減少 ②生涯学習活動団体会員数の減少 ③施設の老朽化

課題 → 利用者にとって安全で快適な学習環境を提供し続ける必要がある

- 気軽に活用してもらえるような取り組みを行う必要がある。(利便性の向上、新たな交流の創出)
- 施設情報の効果的な発信 ○生涯学習活動団体への支援